

## (7) 出資等エクスポージャーに関する事項

バンキング勘定における出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

- 1.バンキング勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに該当するものは、上場・非上場株式、株式関連投資信託、信金中金出資金、及びその他出資金です。
- 2.そのうち、上場株式、株式関連投資信託については定期的に最大予想損失額 (VaR) 等によりリスク量を計測しています。また、過去のマーケットの変動データ等を用いたストレステストを行い、その結果を把握・分析するとともに定期的にALM委員会等へ報告するなど、リスク管理に努めています。
- 3.株式等関連商品への投資は、有価証券に割当てられた自己資本の範囲内で行っており、ポートフォリオ全体のリスクバランスにも配慮して、投資方針や投資上限等を定めております。
- 4.株式等関連商品への投資方針は「余裕資金運用規程」の他、関連する基準等に定めております。また、担当部署における運用状況についてはリスク管理におけるミドル部署が適切に把握・管理しています。

### イ. 貸借対照表計上額及び時価等

(単位：百万円)

区 分	平成28年度		平成29年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	1,059	1,059	1,718	1,718
非上場株式等	2,255	2,250	2,285	2,281
合 計	3,314	3,310	4,003	3,999

(注) 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいております。  
上場株式等には投資信託の裏付資産のうち出資等エクスポージャーに該当するものを含んでいます。  
非上場株式等にはその他資産勘定等に出資として計上している非上場の出資等を含んでいます。

### ロ. 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成28年度	平成29年度
売 却 益	5	6
売 却 損	-	-
償 却	0	0

(注) 損益計算書における損益の額を記載しております。

### ハ. 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成28年度	平成29年度
評 価 損 益	△ 14	△ 4

### 二. 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成28年度	平成29年度
評 価 損 益	-	△ 0

## (8) 金利リスクに関する事項

### イ. リスク管理の方針及び手続の概要

金利リスクとは市場金利の変動により、資産・負債(預金、貸出金、預け金、有価証券等)の価値や将来収益が変動し、損失を被るリスクをいいます。当金庫においては、毎月月末時点で有価証券を除いた各科目について金利更改区分ごとの残高やリスク量の増減等の正確な数値を算出し、詳細に分析することで経営判断に活用する態勢としています。

当金庫はバンキング勘定の金利リスク量と自己資本の関係だけで今後の方針を議論するのではなく、信用リスクや有価証券に関する市場リスク、オペレーショナル・リスク等も併せた統合リスク量と自己資本とを対比し、健全性や収益性について吟味しながら、方針を定めています。

### ロ. 内部管理上使用した金利リスクの算定手法の概要

当金庫では、以下の定義にもとづいてバンキング勘定の金利リスク量を月次で算定し、経営判断に活用しています。

#### ①標準的金利ショック

保有期間1年、観測期間5年で計測される金利変動の1%タイル値と99%タイル値という標準化された金利ショック。

#### ②コア預金

- ・対 象：当座預金・普通預金・貯蓄預金
- ・算定方法：(1)過去5年の最低残高  
(2)過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高  
(3)現残高の50%相当額  
以上3つのうち最小の値を上限

(単位：百万円)

区 分	運用勘定		区 分	調達勘定	
	平成28年度	平成29年度		平成28年度	平成29年度
貸出金	1,015	1,552	定期性預金	476	548
有価証券等	2,516	4,575	要求払預金(コア預金)	341	424
預け金	794	750	その他	1	1
コールローン等	0	0	調達勘定合計	818	974
その他	0	0			
運用勘定合計	4,325	6,877			

(単位：百万円)

	平成28年度	平成29年度
バンキング勘定の金利リスク (アウトライヤー比率)	3,507 (9.11%)	5,903 (14.99%)

(注) 1.バンキング勘定の金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利の影響を受けるもの(例えば、貸出金、有価証券、預金等)が、「標準的金利ショック(上記ロ.①)」によりどの程度の金利リスクを発生させるかを見るものです。なお、当金庫では、有価証券の金利リスク量は再評価方式にて、貸出金・預け金・預金等の金利リスク量はラダー方式にてそれぞれ算定しています。但し、仕組貸出・仕組預金は再評価方式にて算定しています。

2.当金庫のコア預金の定義は、随時払い出しが可能な当座預金・普通預金・貯蓄預金を対象とし、その合計額の50%相当額を0~5年の期間に均等に振り分けて(平均2.5年)、コア預金の金利リスク量を算定しています。

3.バンキング勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。  
バンキング勘定の金利リスク=運用勘定の金利リスク量-調達勘定の金利リスク量